

## 令和2年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール 事業計画書

### I 委託事業の内容

#### 1. 研究開発課題名

「高校生版DMO」の活動を核とした地域観光ビジネス教育プログラムの開発

#### 2. 研究の目的

本校が所在する千葉県長生郡一宮町は、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技会場地（サーフィン）となった。町では、この世界的イベントを地域観光活性化の起爆剤としてとらえ、町の振興につなげていこうとする機運が高まっている。また、次期学習指導要領の教科「商業」では科目「観光ビジネス」が新設となり、「商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、観光ビジネスの展開に必要な資質・能力を育成する」こととされている。

そこで、本研究では、主として教科「商業」の学びを通し、地域観光活性化のために活躍することのできる専門的職業人（以下、観光人材）を育成するために、どのような教育プログラムが有効か、という点について、一宮町を中心とした外房地域の観光活性化に向けた取組を通じて明らかにする。

具体的には、『マネジメント』、『観光コンテンツ』、『国際交流』、『観光マーケティング』、『観光・地域ビジネス』の5つの分野に重点を置き、生徒が、地域との連携を軸にしながら外房地域の多様な関係者と協働して、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりを行う組織（＝高校生版DMO）を主体的に運営する過程をとおして、専門的職業人を育成することを目指している。

※DMO：Destination Management Organization の略

行政や地域との連携を軸にしながら外房地域の多様な関係者を巻き込み、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりを行う組織

#### 3. 実施期間

契約日から令和3年3月15日まで

#### 4. 当該年度における実施計画

##### (1) 育成する人材像

本研究を通じて、地域観光に興味をもち、ビジネスとして捉え、将来、社会的・職業的に自立し、地域観光活性化を担い、一宮を中心とした地域のさらなる発展や未来創造に貢献できる人材の育成を目指す。

##### (2) 求められる資質・能力

地域観光ビジネスの基礎的知識や、英語を通じたコミュニケーション力、情報活用能力など、ビジネスに関する専門的知識・技術を習得するとともに、地域観光の実状を理解することができる力を育成する。

具体的には、教科「商業」の各科目の学びを生かした、観光ビジネスについての実践力を伴っ

た体系的・系統的な知識及び技術を身に付ける。また、地域観光に関する課題を発見・設定し、専門的職業人としての倫理観をもって合理的・創造的に課題を解決する力を育成する。さらに、長きにわたって地域社会を支える人財として必要な人間性、及び、より良い地域社会の実現に向けて主体的に学び、協働的に物事に取り組むことができる力の育成を目指す。

今年度は、高校生版DMOの実践に必要な知識や技術の習得を目指し、観光に関する専門的知識を学びながら地域の現状理解と地域観光活性化に向けた力を身に付け、地域に出て活動する学習プログラムの実施と検証を行う。また、地域との連携を軸に、次年度に実施する学習プログラムの研究を行う。

### (3) 教育プログラムの開発

ア. 地域の課題発見力・分析力・表現力の育成

【観光・地域ビジネス分野の取組】

「地域観光ビジネス」～みんなの想い 「一宮町再発見」

#### (ア) 資質・能力の概要

- ・観光による地域の活性化について、企業における事例と関連付けて理解できる。
- ・観光による地域の活性化に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて観光による地域の活性化に関する計画を立案できる。
- ・観光による地域活性化について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む。

#### (イ) 実施時期及び期間

【現代社会】 2学期 事前事後学習各1時間、調べ学習3時間、発表1時間 (計6時間)

【ビジネス基礎】 1学期 調査・課題検討2時間

2学期 事前事後学習各1時間、文化祭での体験学習6時間 (計9時間)

【地域観光Ⅰ】 通年 地域観光Ⅰの選択者 3単位中の1単位分を社会科と商業科のティームティーチングで授業を行う。

#### (ウ) 教育課程上の位置付け

1年生 公民科「現代社会」 商業科「ビジネス基礎」 160名

2年生 「地域観光Ⅰ」 13名

#### (エ) 具体的教育プログラム

- ・私たちの学校がある一宮町の伝統文化や魅力について、風土愛、郷土愛を深める。
- ・一宮町が取り組もうとしている観光分野での町おこしについて、理解を深める。
- ・観光地として、国内、海外から多くの観光客が来ることを想定し、それに対応できるようコミュニケーション能力の向上を図る。
- ・一宮町の人口減、経済衰退といった課題を理解し、高校生の立場から外国人を含めた観光客誘致のビジネスモデルを考える力の向上を図る。
- ・地域の地場産業から観光の魅力を探り、地域活性化へ繋げることを考える力の向上を図る。

- ・今後実施する観光アプリの開発やイベントプランの作成に生かすための IT 技術に関する基礎的な力を身に付ける。

#### 【現代社会】

グループごとに様々な一宮町の伝統文化・歴史等を調べ、他グループへの発表資料を作成する。最後は資料に基づき、実際発表させる。

- ・学習の初めに、意識づけのためのアンケート調査を実施する。
- ・一宮町の歴史・史跡などについてグループごとに調査する。
- ・各班で発表に向け1つのテーマを深く掘り下げる調べ学習を行い、それが周囲へ伝わるよう工夫を行う。
- ・一宮町の観光資源について調べることで一宮町の伝統文化理解及び新たな観光対象の発掘につなげる。
- ・各班の発表を通して一宮町の特徴・魅力について再確認する。
- ・事後学習としてアンケート調査を実施し、事前事後の比較を行う。

#### 【ビジネス基礎】

- ・「社会の変化とビジネスの発展」に関する学習において、現在の一宮町のもっている特徴・魅力は何かを問いかける。
- ・上記を踏まえて、一宮町及び千葉県の魅力有る地場産品を見つけ、テーマ・ストーリーを設定し、利益計画をたて、販売促進について調査研究することでビジネスについての理解を深める。
- ・グループごとに調査・研究した内容を活かし、文化祭で「一商デパート」として販売体験をさせ、ビジネス力のスキルアップを図る。
- ・一宮町役場に講演を依頼し、地域の特性について講演を開催する。

#### 【地域観光 I】

- ・一宮町の概要や社会的な面からとらえる地域的特徴、歴史的事象についての理解を深め、町の特徴の把握やそれを生かした観光資源の発掘につなげる。
- ・まだ広く知られていない観光資源を取り上げ、どのようにして観光対象にしていくのかを考える過程を通して、一宮町の観光のあり方を考える。
- ・イベント出展時などに、一宮町の特徴を伝えるブースを生徒のアイディアをもとに作成し、アンケート調査を実施することで、魅力の伝え方やまとめ方を学ぶ。

#### (オ) 学習評価の方法

- ・パフォーマンス課題によって評価を行う。
- ・意識調査（アンケート調査）の前後でどのくらい意識が変わったかを測定する。
- ・発表に関しては、資料の分かりやすさや完成度を総合的に評価する。
- ・発表を行う際にグループ内の貢献度を評価し、積極性や責任感などを観点別に評価する。
- ・公民的な事項については、生徒が作成したプリントを元に小テストで評価を行う。
- ・「ビジネス基礎」で学んだ基礎知識については、定期考査及び小テストでの評価及び下記のルーブリックによる到達度評価を行う
- ・「地域観光 I」で学んだ基礎知識については、定期考査及び小テストで評価を行う。
- ・「現代社会」については、下記のルーブリックにより評価する。

観光・地域ビジネス分野ルーブリック（現代社会）					
		Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
資質・能力	評価項目 (規準)	C 努力を要する	B 概ね満足	A 十分満足	S 素晴らしい
積極性	一宮町の魅力や観光資源について、自分なりの考えやアイデアを持ち、日頃の学習やグループ活動においてそれらを積極的に表現することが出来る。	自分なりの考えを持って取り組んでいる	自分の意見を持ち、調べ学習などにも積極的に取り組んでいる	自分の意見やアイデアを発信することが出来、主体的に学習に取り組んでいる	自分の意見を積極的に発信するだけでなく、他者への働きかけも行いながら主体的に学習を進めている
協働性	一宮町の魅力や観光資源について、友人との意見交換を通してそれぞれの考えを深めたり、より斬新な発想を手に入れることが出来る。	グループの中で与えられた役割や仕事に取り組むことが出来る。	グループの中で、自ら役割を見つけ、その役割をやりきることが出来る	グループの中で自ら役割を見つけ、身近なメンバーと協力したり支えたりすることが出来る。	グループのメンバーを個性を生かして仕事を割り振り、グループ全体が成功するために主体的に行動することが出来る。
分析力	一宮町の魅力や観光資源について、その現状について自分なりの考えを持ち、今後の取り組みについて効果的な意見を見いだすことが出来る。	一宮町の観光に関わる現状を理解している。	一宮町の観光に関わる現状を理解し、今後についての提案が出来る。	一宮町の観光の現状について原因や理由を分析し、それに基づき今後についての提案が出来る。	一宮町の観光の現状について原因や理由を分析し、それに基づき今後の活性化に向けて効果的な提案が出来る。
表現力	発表の場面において、受け手側の立場を考え、話の順序やポイントとすべき点などに考慮して、他者に理解させるための発表が出来る。	他者から習った表現方法に沿って、自身の意見を表現できる。	表現方法に自分なりの工夫を持たせ自分の意見を表現できる。	相手の理解が深まることを目的とし、内容や順序などに適切な工夫をして表現することが出来る。	話の受け手に、内容だけでなく、自身の思いも伝わるよう、内容や話し方、身振り手振りなどにも気を配り表現することが出来る

観光・地域ビジネス分野ルーブリック（ビジネス基礎）					
		Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
資質・能力	評価項目 (規準)	C 努力を要する	B 概ね満足	A 十分満足	S 素晴らしい
積極性	一宮町を中心とした地域の特性に関心を持ち積極的に魅力を探究し、それをビジネスとして活かすことを意欲的に図ることができる。	地域の魅力とビジネスに興味関心を示し、調査研究及びビジネス体験活動に取り組んでいる。	地域の魅力とビジネスに興味関心を示し、調査研究及びビジネス体験活動に積極的に取り組んでいる。	地域の魅力とビジネスに深く興味関心を示し、調査研究及びビジネス体験活動に積極的に取り組んでいる。	地域の魅力とビジネスに深く興味関心を示し、調査研究及びビジネス体験活動に強い意欲を持って積極的に取り組んでいる。
協働性	オリンピックを控え、世界に発信できるグローバリズムと一宮町のローカリズムを理解し、様々な産業分野、バックボーンを持つ人々と協働し、訪れる人々への対応が先導的に行える。	一宮町の世界に発信できる魅力と地域性を深く理解し、様々な産業分野や背景を持つ人々と意欲的に協働し、訪れる人々への対応が先導的に行える。	一宮町の世界に発信できる魅力と地域性を深く理解し、様々な産業分野や背景を持つ人々と協働し、訪れる人々への対応ができる。	一宮町の世界に発信できる魅力と地域性を深く理解し、様々な産業分野や背景を持つ人々と意欲的に協働し、訪れる人々への対応ができる。	一宮町の世界に発信できる魅力と地域性を深く理解し、様々な産業分野や背景を持つ人々と意欲的に協働し、訪れる人々への対応が先導的に行える。
コミュニケーション能力	資料を「読み込む」力や、他の意見を「聴き取る」力、自らの意見を「表現する」力を総合的に発揮できる。	調査資料を読み、他の意見を聴き、自らの意見を表現することができる。	調査資料を深く読み込み、他の意見を聴き取ることができ、自らの意見を表現し伝えることができる。	調査資料を深く読み込み、他の意見をしっかりと聴き取り理解することができ、自らの意見を表現し伝えることができる。	調査資料を深く読み込み、他の意見をしっかりと聴き取り理解することができ、自らの意見を他にはっきりと表現し伝えることができる。
表現力	ビジネス体験の「一商デパート」で、顧客のニーズを掴み、仕入・販売・販売促進活動を通して自らの考えを発信できる。	来場者のニーズを把握し、仕入・販売・販売促進活動を通して、一宮町の魅力を発信することができる。	来場者のニーズを的確に把握し、仕入・販売・販売促進活動を通して、一宮町の魅力を発信することができる。	来場者のニーズを的確に把握し、それを十分考慮した仕入・販売・販売促進活動を通して、一宮町の魅力を発信することができる。	来場者のニーズを的確に把握し、それを十分考慮した仕入・販売・販売促進活動を通して、一宮町の魅力を十分発信することができる。

イ. 英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする積極的な態度と能力の育成

【国際交流分野の取組】

外国人観光客の困りごとを解決し、支援できるコミュニケーション能力の育成

(ア) 資質・能力の概要

- ・観光ビジネスにおけるホスピタリティの重要性を理解し、具体的な言語の使用場面を想定した言語活動に取り組む。
- ・情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりすることができる。
- ・英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。

(イ) 実施時期及び期間

1年	「コミュニケーション英語Ⅰ」				
	1学期3時間	2学期3時間	3学期2時間	(8時間)	
2年	「コミュニケーション英語Ⅱ」				
	1学期2時間	2学期2時間	3学期1時間	(5時間)	
	「地域観光Ⅰ」				
	2学期6時間			(6時間)	
3年	「地域観光Ⅱ」				
	1学期5時間			(5時間)	

(ウ) 教育課程上の位置付け

1年	「コミュニケーション英語Ⅰ」	163名全員
2年	「コミュニケーション英語Ⅱ」	160名全員
	「地域観光Ⅰ」	選択者13名
3年	「地域観光Ⅱ」	選択者18名

(エ) 具体的教育プログラム

国際的イベントや観光で一宮町を訪れる外国人観光客について、その状況やニーズを理解し英語を用いて適切な対応や支援を行うコミュニケーション能力を養う。

**1年生全員** 「コミュニケーション英語Ⅰ」

教科書の単元的话题を生かしながら生徒自身の体験を発表し、英語でのコミュニケーションに役立つ活動を行う。

4・5月	教科書レッスン1	1月	教科書レッスン9
7月	国際交流ガイダンス	2月	英語科特別授業
10月	国際交流特別講演会		

**2年生全員** 「コミュニケーション英語Ⅱ」

教科書の各単元的话题を生かしながら外国人への具体的な活動を想定し実践につながる取り組みを行う。

4・5月	教科書レッスン1	12月	教科書レッスン8
7月	国際交流特別授業	2月	英語科特別授業
11月	教科書レッスン7		

**2年生 選択者 「地域観光Ⅰ」**

- ・地域を訪れる外国人観光客に対する英語での適切な対応の仕方を学び、他のユニットと協働しながら地域での実践力を身に付ける。

[方法] ペアによるロールプレイングや Show & Tell

**3年生 選択者 「地域観光Ⅱ」**

- ・一宮町や近隣の観光スポットを英語で紹介し行き方を伝えたり、外国人観光客のニーズに対応できる力を身につける。

[方法] ペアによるロールプレイングや Show & Tell

(オ) 学習評価の方法

- ・英検 IBA レベルのパフォーマンステストを学期ごとに行う。
- ・ルーブリック評価法により、生徒の自己評価と教員による評価を行う。

国際交流unit Rubric					
		Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
資質・能力	評価項目 (規準)	C 努力を要する	B 概ね満足	A 十分満足	S 素晴らしい
積極性	外国人とのコミュニケーションに関心を持ち積極的に言語活動に関わり、外国人とのコミュニケーションを意欲的に図ることができる。	コミュニケーションに関心を持ち、言語活動には取り組んでいる。	コミュニケーションに関心を持ち、言語活動に意欲的に取り組んでいる。	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動に関わり、外国人とのコミュニケーションを意欲的に図ることができる。	コミュニケーションに高い関心を持ち、外国人とのコミュニケーションを先導的に主体的に図ることができる。
協働性	グローバリズムとローカリズムを理解し、様々な分野、バックボーンを持つ人々と協働し、一宮町を訪れる人々への対応で先導的に活躍できる。	友人と協力して、課題に取り組むことができる。	友人や地域の人々と協力して、一宮町の観光産業に対する働きかけができる。	グローバルな視点とローカルな視点を併せもち、様々な人々と協働して一宮町を訪れる人々への働きかけができる。	グローバリズムとローカリズムを理解し、様々な分野、バックボーンを持つ人々と協働し、一宮町を訪れる人々への対応で先導的に活躍できる。
コミュニケーション能力	言語や文化に対する理解を深め、英語を用いて「聞いたり」「読んだり」「話したり」してコミュニケーションを図ることができる。	英語に対する興味関心を持ち、英語を用いて簡単なコミュニケーションを図ることができる。	英語に対する興味関心を深め、英語を用いて「聞いたり」「話したり」することができる。	言語や文化に対する理解を十分に深め、英語を用いて「聞いたり」「読んだり」「話したり」してコミュニケーションを図ることができる。	言語や文化に対する理解を深め、英語を用いて「聞いたり」「読んだり」「話したり」して円滑にコミュニケーションを図ることができる。
表現力	基本的・基礎的な知識や技能を活用し、外国人の困りごとに対して、英語を用いて具体的な支援や解決策を伝えることができる。	基本的な知識を有し、簡単な英語を用いて課題について表現することができる。	基本的・基礎的な知識や技能を活用して、課題に対して英語で表現することができる。	基本的・基礎的な知識や技能を活用し、外国人の困りごとに対して、英語を用いて具体的な支援や解決策を伝えることができる。	発展的な知識や技能を有し、英語を用いて外国人観光客に対して自国の文化等を発信することができる。

一宮町の観光資源をリンクする『一商版DMOプロジェクト』

(ア) 資質・能力の概要

- ・観光による地域の活性化について企業における事例と関連付けて理解するとともに、観光振興とまちづくりとの関係など、観光ビジネスの展開と効果に関する知識を身に付ける。
- ・観光による地域の活性化に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて観光による地域の活性化に関する計画を立案できる。
- ・観光資源の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

(イ) 実施時期及び期間

- 1年 10月 11月 12月の6時間程度  
2年 4月～3月 週3時間 【選択 地域観光Ⅰ】  
3年 4月～1月 週2時間 【選択 地域観光Ⅱ】  
4月～1月 週2時間 【課題研究 ビジネス研究班】

(ウ) 教育課程上の位置付け

- 1年「ビジネス基礎」 1学年全員に実施  
2年選択「地域観光Ⅰ」  
3年選択「地域観光Ⅱ」  
3年「課題研究」ビジネス研究選択者

(エ) 具体的教育プログラム

1年 全体

- 各地で先行する地域観光ビジネスの取組を参考にし、観光ビジネスについて興味・関心をもたせ、今後実施する「高校生版DMO」について講話により理解を深める。
- ・学習のはじめに、生徒の意識について事前のアンケート調査を実施する。
  - ・「モノ消費からコト消費」「インバウンド」など近年のビジネス環境の変化について学ぶ。
  - ・一宮町について調査・研究に取り組み、一宮町役場職員より講話を聞く。
  - ・地域観光ビジネスに取り組んでいる地域の活動事例について調査・研究する。
  - ・DMOについての講演会を実施し、DMOについてまとめさせる。
  - ・3年生「課題研究」ビジネス研究班およびビジネス研究部による取組発表を聞く。
  - ・事後のアンケート調査を行う。

2年 選択「地域観光Ⅰ」

- 「観光の定義」と、「観光を学ぶ意義」、「観光がもたらす効果や影響」を外部講師による講義を交えながら理解する。その知識をもとに、フィールドワーク等をとおして地域の魅力を発見し、効果的に発信する能力を身につける。
- ・外部講師に来校していただき、一宮町の「海」や「歴史・文化」に関する魅力を理解し、一宮町の来訪者に町内の魅力を伝える力を養う。

- ・ 7月末～8月上旬に開催される「東京五輪」で、一宮町役場企画イベントにて一宮町来訪者に町内の魅力を伝えるための掲示物や配布物を作成する。
- ・ 11月に開催予定の「DMOの役割を果たすイベント」で来訪者に体験していただくワークショップの開発をし、実践する。
- ・ 一宮町の魅力を動画配信する技術を養う。
- ・ 翌年度に取り組むDMOとして役割を理解し、計画・立案する。

### 3年 選択「地域観光Ⅱ」

観光振興とまちづくりについて理解し、観光ビジネスの展開と効果について実践を交えながら知識を深める。また、その知識をもとに、地域の魅力を発見し、効果的に外部へ発信する能力を身につける。

- ・ 外部講師に来校していただき、観光振興やまちづくりについて理解を深める。
- ・ 7月末～8月上旬に開催される「東京五輪」で、一宮町役場企画イベントにて一宮町来訪者をおもてなしする企画を立案し、運営する能力を育む。
- ・ 11月に開催予定の「DMOの役割を果たすイベント」を、地域でマーケットを開催している方々と協働し、企画・運営する。
- ・ イベント効果を検証する。

### 3年 「課題研究」

これまで学習した商業の学びを生かし、高校生の力で変化を生みだせる活動に取り組み、商業の学びを深化させる。

- ・ 町内の商店街の店舗と協力して、商店街への人の流れを作るための取り組みや、観光客へ対する企画等を立案し運営する。
- ・ 一宮町の課題を調査し、地域で活動している方や有識者との意見交換を行い、実情を理解するとともに解決方法を検討する。

## (オ) 学習評価の方法

### 1年 全体

- ・ 学習態度やレポートによって「知識・理解」や「関心・意欲・態度」など、観点別評価を行う。

### 2年 選択「地域観光Ⅰ」

- ・ 定期考査による評価。
- ・ 学習態度やレポートによって「知識・理解」や「関心・意欲・態度」など、観点別評価を行う。
- ・ また下記のとおりルーブリックによる到達度評価も行う。

### 3年 選択「地域観光Ⅱ」

- ・ 定期考査による評価。
- ・ 学習態度やレポートによって「知識・理解」や「関心・意欲・態度」など、観点別評価を行う。
- ・ また下記のとおりルーブリックによる到達度評価も行う。

### 3年「課題研究」

- ・ 学習態度やレポートによって「知識・理解」や「関心・意欲・態度」など、観点別評価を行う。

- ・また下記のとおりルーブリックによる到達度評価も行う。

マネジメント分野 ルーブリック

		Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
資質・能力	評価項目 (規準)	C 努力を要する	B 概ね満足	A 十分満足	S 素晴らしい
知識理解	取り組みにおいて習得すべき知識や概念等を理解している。	習得すべき知識や概念等を理解できていない。	習得すべき知識や概念等の基本について理解している。	習得すべき知識や概念等を概ね理解している。	習得すべき知識や概念等を十分に理解している。
主体性	物事について、自ら考え主体的に取り組むことができる。	自ら考えることができず、主体的に行動することができない。	自ら考えることはできないが、主体的に行動しようとしている。	自ら考え、主体的に行動しようとしている。	自らの考えをしっかりと持ち、主体的に行動している。
協働性	他者と意見を共有し、協力しながら取り組むことができる。	他者と意見を共有することができない。	他者と意見を共有できていないが、協力することはできる。	他者と意見を共有し、協力することができる。	他者と意見を共有し、共通認識を高めながら活動することができる。
創造力	物事について論理的に考え、新たな方法や解決策を創造することができる。	物事を論理的に考えることができない。	物事を論理的に考えることができるが、新たなものを創造することができない。	物事を論理的に考え、新たなアイデアを創造することができる。	物事を論理的に考え、優れた新たなアイデアを創造することができる。
分析力	物事をあらゆる角度から見て分析し、問題解決に取り組むことができる。	物事を多角的に見て問題点を見出すことができる。	物事を多角的にみて問題点を見出し、原因を考えることができる。	物事を多角的に見て、問題解決に取り組むことができる。	問題解決に取り組み、結果を分析・活用することができる。

エ. IT の力で地域を活性化させる発想力と主体性の育成

【観光コンテンツ分野の取組】

一商版ハッカソン 一宮町の魅力を発信する観光コンテンツの開発

(ア) 資質・能力の概要

- ・情報通信技術を活用して地域社会に貢献するための知識・技術を習得し、観光アプリを作成することで表現力する。
- ・観光アプリ制作を通して、情報通信技術を活用した企業活動やビジネスプラン、観光資源の利用などについて考える主体性や思考力・判断力・表現力を育む。
- ・作成した観光アプリをステークホルダーに使用してもらった活動を通して、コミュニケーション能力や課題発見能力・課題解決能力を育む。

(イ) 実施時期及び期間

4月～3月 週2時間 【選択 プログラミング応用】

(ウ) 教育課程上の位置付け

3年生「プログラミング応用」選択者

(エ) 具体的教育プログラム

- ・地域振興に役立つ観光アプリの具体的内容について、1年次の観光アプリアイデアコンテストや2年次の観光コンテンツ作成を元にアイデアを考案する。
- ・観光アプリ作成に際して、情報モラルや肖像権、知的財産権の取り扱いについて再確認し、理解を深める。
- ・Google Map や GPS 情報を活用した観光アプリを作成するとともにユーザに喜ばれる機能を実装する。
- ・作成した観光アプリを一宮町の商店の店主や町役場、地域住民、校内の生徒などに体験してもらい意見収集を行う。
- ・観光アプリについて収集した意見を元にアプリケーションの改善を行う。
- ・1年間の取り組みを報告書やプレゼンテーションにまとめ、発表する。

(オ) 学習評価の方法

- ・知識・理解及び、技能については、授業で作成する観光アプリのプログラムの内容や作成状況、定期考査などで評価する。
- ・思考・判断・表現は、作成した観光アプリをステークホルダーに使用してもらい活動の取り組み状況や授業内での取り組みの発表などを行動観察で評価する。
- ・関心・意欲・態度は、普段の授業への取り組みや授業を通して主体性、積極性、行動力、コミュニケーション能力の成長について行動観察で評価する。

		Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
資質・能力	評価項目 (規準)	C 努力を要する	B 概ね満足	A 十分満足	S 素晴らしい
積極性	観光アプリの企画やプログラミング、開発後の評価・改善などについて積極的に活動することができる。	授業内容でわからないことを解消しようとせず、積極性がない。主体的に学習に取り組む関心・意欲・態度がない。	観光アプリで作成したい機能を実現するために自分ができる活動について積極的に行動した。	観光アプリで作成したい機能を実現するために多くの活動について積極的に行動した。	観光アプリで作成したい機能を実現するためにすべての活動について積極的に行動し、成果を上げた。
協働性	観光アプリ作成の各開発工程において、協力して作業を行い、作成したい機能を実装することができる。	観光アプリの各開発工程において、周囲と適切にコミュニケーションをとることができず、協力して活動に取り組まない。	観光アプリの各開発工程において、友人とコミュニケーションをとり、よりよい作品を作ろうと努力できる。	観光アプリの各開発工程において、友人や地域住民にコミュニケーションをとり、よりよい作品を作ろうと努力できる。	観光アプリの各開発工程において、友人や地域住民と積極的にコミュニケーションをとり、よりよい作品を作ろうと努力できる。
分析力	観光アプリにどのような機能を実装すれば、利用してもらえるかを定性的・定量的に分析し、主体的に判断することができる。	観光アプリに求められる機能を定性的・定量的あるいは、主体的に分析できない。	観光アプリに求められる機能を定性的に分析している。	観光アプリに求められる機能を定性的・定量的に分析している。	観光アプリに求められる機能を定性的・定量的に分析している。また、開発した観光アプリの定性的・定量的な評価が分析できる。
表現力	観光アプリについて、自らが実現したい機能や地域住民から要望があった機能を実現し、表現することができる。	利用者の立場に立った観光アプリを作成することができず、使いやすいアプリを設計、作成、表現することができない。	利用者が利用しやすいように自分なりに工夫して観光アプリを設計、作成し、表現できる。	情報デザインの観点を部分的に取り入れ、利用者が利用しやすいように工夫して観光アプリを設計、作成し、表現できる。	情報デザインの観点を多く取り入れ、利用者が利用しやすいように工夫して観光アプリを設計、作成し、表現できる。

※ハッカソン……ソフトウェアのエンジニアリングを指す“ハック”（hack）とマラソン（marathon）を組み合わせた米IT業界発祥の造語。複数のプロジェクトチームが、マラソンのように、数時間から数日間の与えられた時間を徹してアイデアの考案やプログラミングに没頭し、成果を競い合う開発イベントのこと。

オ. 観光ビジネスに必要な企画力・創造力の育成

【観光マーケティング分野の取組】

「観光マーケティング塾（実践編）」 ～イベントにおける実践研究～

(ア) 資質・能力の概要

- ・観光ビジネスにおけるマーケティングについて、企業における事例と関連付けて理解できる。
- ・観光ビジネスにおけるマーケティングに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、マーケティングに関する計画を立案できる。
- ・観光ビジネスにおけるマーケティングについて自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、マーケティングに主体的かつ協働的に取り組む。

(イ) 実施時期及び期間

- 7月～8月の東京五輪サーフィン競技開催時
- 11月のDMO関連イベント開催時

(ウ) 教育課程上の位置付け

- 3年生 「地域観光Ⅱ」選択者

(エ) 具体的教育プログラム

昨年度までのマーケティング関連講演やマーケティング塾（初級編）を基礎として、新しい地域活性化ビジネスを考える上での、マーケティング戦略に基づいたDMOの企画・運営や商品開発販売ができるよう意識を高める。

1年生 全体

一宮町の地理的環境や特徴及び町の現状についての講演会を実施する。

- ・この講演会により、一宮町の課題等を発見することができ、今後の観光マーケティングに役立てる。

千葉県内で地域振興活動を行っている企業の方による講演会を実施する。

- ・この講演会により、マーケティングの大切さを学習させるとともに、次年度のマーケティング塾への興味関心を高める。

2年生 「地域観光Ⅰ」及び「マーケティング」選択者

1年次のマーケティングに関する講演会を基礎に、実際に地域の観光関連ビジネスを展開している企業人や専門的知識をもっている大学関係者による観光マーケティング塾を開講し、地域観光ビジネスについての理解を深める。

- ・学習の初めに、生徒に観光マーケティングについて、事前アンケート調査を行う。
- ・集中講義によって学習を進める。
- ・講義の振り返りとして、それぞれの感想や疑問点などをレポートとしてまとめる。

### 3年生 「地域観光Ⅱ」選択者

- ・デジタルマーケティングを活用したプロモーションの企画に取り組む。
- ・東京五輪に向けて、地元特産物を使った商品開発に取り組み販売する。
- ・地元の商店等を巻き込んだマーケットの企画・運営までを行い、DMOの理解を深める。

### (オ) 学習評価の方法

- ・意識調査（アンケート調査）の前後でどのくらい意識が変わったかを測定する。
- ・「観光マーケティング塾」の学びを通して、どのような資質・能力が向上したか、生徒へ意識調査を行う。
- ・下記のようなルーブリックによる到達度評価を行う。

観光マーケティング分野ルーブリック		Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
資質・能力	評価項目 (標準)	C 努力を要する	B 概ね満足	A 十分満足	S 素晴らしい
積極性	一宮町を中心とした地理的特徴に関心を持ち自ら積極的に行動し、それを観光マーケティングに役立てることができる。	地理的特徴とマーケティングに関心を示し、調査探求及びマーケティング体験活動に取り組んでいる。	地理的特徴とマーケティングに関心を示し、調査探求及びマーケティング体験活動に積極的に取り組んでいる。	地理的特徴とマーケティングに関心を示し、調査探求及びマーケティング体験活動に意欲的・積極的に取り組んでいる。	地理的特徴とマーケティングに関心を示し、調査探求及びマーケティング体験活動に主体的・意欲的・積極的に取り組んでいる。
協働性	一宮町の現状や地域活性化について、多くの方々との意見交換を通して理解を深め、具体的なアイデアを創造できる。	グループで協力して、与えられた役割・課題に取り組むことができる。	グループで協力して、自ら行動を起こして、その役割・課題をやり遂げることができる。	グループで協力して、自ら行動を起こし、地域の方々を巻き込んで意欲的に課題に取り組むことができる。	グループで協力して、自ら行動を起こし、地域の方々を巻き込んで主体的・意欲的に課題解決に取り組むことができる。
分析力	一宮町の魅力について、今の現状をあらゆる角度から見て分析し、自分なりの考えを持ち、今後の取り組みについて効果的な意見を見いだすことができる。	一宮町の魅力に関わる現状を理解している。	一宮町の魅力に関わる現状を理解し、今後についての提案が出来る。	一宮町の魅力に関わる現状について原因や理由を分析し、それに基づき今後についての提案が出来る。	一宮町の魅力に関わる現状について原因や理由を分析し、それに基づき今後の活性化に向けて効果的な提案が出来る。
表現力	聞く側の立場になって、話す内容の順番やポイントを考慮に入れて、大勢の方々に理解してもらえる発表が出来る。	基本的な表現方法に基づき、自分の意見を述べる事が出来る。	基本的な表現方法に自身のオリジナリティを加えて、自分の意見を述べる事が出来る。	話す内容や順番に適宜創意工夫をこらして、自分の意見を述べる事が出来る。	聞く側の立場にたって、話す内容はもちろんのこと、その表現の仕方にも工夫を加味して意見を述べる事が出来る。

(5) 研究成果の普及

研究成果については、報告書形式にまとめ、関係各所に配布する。またWebサイトを活用したり、町のイベント会場での発表や掲示物等を作成し、研究成果の周知に努める。さらに「SPH中間発表会」や校内プレゼンテーションにおいて報告し、共有を図る。その際には、教育関係者や企業などの外部連携機関にとどまらず、広く地域にも公開して研究成果の普及を図る。

2. 実施体制

(1) 研究担当者

5つの研究分野である『マネジメント』、『観光コンテンツ』、『国際交流』、『観光マーケティング』、『地域観光ビジネス』について、ユニットを構築する。各ユニットは、具体的な取組を企画し、各教科、学年、分掌が支援を行う。今年度は、学校設定科目「地域観光Ⅰ」「地域観光Ⅱ」「プログラミング応用」を中心に、商業科目「ビジネス基礎」「情報処理」、英語科・地歴公民科の授業及び学年行事の中で研究を行う。

氏名	職名	役割分担・担当教科等
渡部 清	校長	統括
井上 修一	教頭	連絡調整
北根 克義	事務長	財務担当、予算管理・経理事務
末永 敬一	教諭	商業科主任・ユニット統括・「地域観光Ⅰ」担当
丸島 卓也	教諭	情報処理科主任・「情報処理」「プログラミング」担当
鈴木 俊昭	教諭	教務主任・教育課程調整・数学科
田辺 和代	教諭	「コミュニケーション英語Ⅱ」「地域観光Ⅰ、Ⅱ」担当
酒井 宣浩	教諭	「コミュニケーション英語Ⅰ」担当
半沢 祥光	教諭	「現代社会」「地域観光Ⅰ」担当
浅野 正史	教諭	観光・地域ビジネスユニット 「ビジネス基礎」担当
太田 義昭	教諭	マネジメントユニット
田中 衡	教諭	観光・地域ビジネスユニット 「ビジネス基礎」担当
石井 正	教諭	観光マーケティングユニット 「マーケティング」担当
江澤 武人	教諭	観光コンテンツユニット 「情報処理」担当
橋本 秀哉	教諭	観光マーケティングユニット 「情報処理」担当
太田 真純	教諭	観光・地域ビジネスユニット 「ビジネス基礎」担当
窪岡 慎一	教諭	観光マーケティングユニット
速水 圭太郎	教諭	観光・地域ビジネスユニット
田中 善洋	教諭	マネジメントユニット「地域観光Ⅰ、Ⅱ」担当
勝 和 大	教諭	観光・地域ビジネスユニット
橋本 翔平	教諭	観光コンテンツユニット 「プログラミング」「プログラミング応用」担当
寺家 光希	教諭	観光・地域ビジネスユニット 「ビジネス基礎」担当

石井 浩子	実習助手	「情報処理」担当
高橋 憲仁	実習助手	「情報処理」担当
鈴木 朝枝	実習助手	「情報処理」担当

(2) 研究推進委員会

S P H運営指導委員会及び千葉県教育委員会の指導，助言を受け，企画立案や連携先機関との連絡調整を図りながら，ユニットごとの事業を展開する。

氏 名	職 名	役割・分野等
渡部 清	校長	統括
井上 修一	教頭	連絡調整
北根 克義	事務長	財務担当，予算管理・経理事務
末永 敬一	教諭	企画立案統括，「観光マーケティング塾」運営担当
元吉 一仁	教諭	企画立案統括補佐
丸島 卓也	教諭	「ホームページ」「観光コンテンツ開発」運営担当
鈴木 俊昭	教諭	教育課程，行事検討担当
田辺 和代	教諭	「国際交流」企画立案担当
酒井 宣浩	教諭	「国際交流」運営担当
半沢 祥光	教諭	「観光・地域ビジネス」企画立案担当
石井 正	教諭	「観光マーケティング塾」企画立案担当
田中 善洋	教諭	「マネジメント」企画立案担当
橋本 翔平	教諭	「観光コンテンツ開発」企画立案担当
田中 衡	教諭	「観光・地域ビジネス」企画立案担当
高橋 憲仁	実習助手	取組の記録及び広報担当
鈴木 朝枝	実習助手	取組の記録及び広報担当

(3) 運営指導委員会

本校のS P H事業の推進において，第三者の立場として，学校教育に関する有識者，企業等の専門職従事者，行政機関の職員等を委員として依頼し，指導助言をしていただく。また，来年度以降のプログラム策定についても助言をいただく。

氏 名	所属・職名	役割・専門分野等
山本 恭裕	千葉商科大学商経学部教授	研究全体の評価 指導・助言（マーケティング）
于 航 (YU HANG)	城西国際大学観光学部准教授	研究全体の評価 指導・助言（インバウンド観光）

瀬田 直也	千葉商工会議所 企画経営部 企画広報課長	研究全体の評価 指導・助言（地域経済振興）
宇佐美 信幸	合同会社 いちのみや観光局	研究全体の評価 指導・助言（DMOの運営）
岩本 慎一	千葉県商工労働部観光企画課 観光企画室 観光推進員	研究全体の評価 指導・助言（県観光行政）
川島 敏文	一宮町 副町長	研究全体の評価 指導・助言（地域連携）
山森 一輝	千葉県教育庁 学習指導課 指導主事	研究活動への指導助言（教育）

#### （４）千葉県教育委員会における支援体制

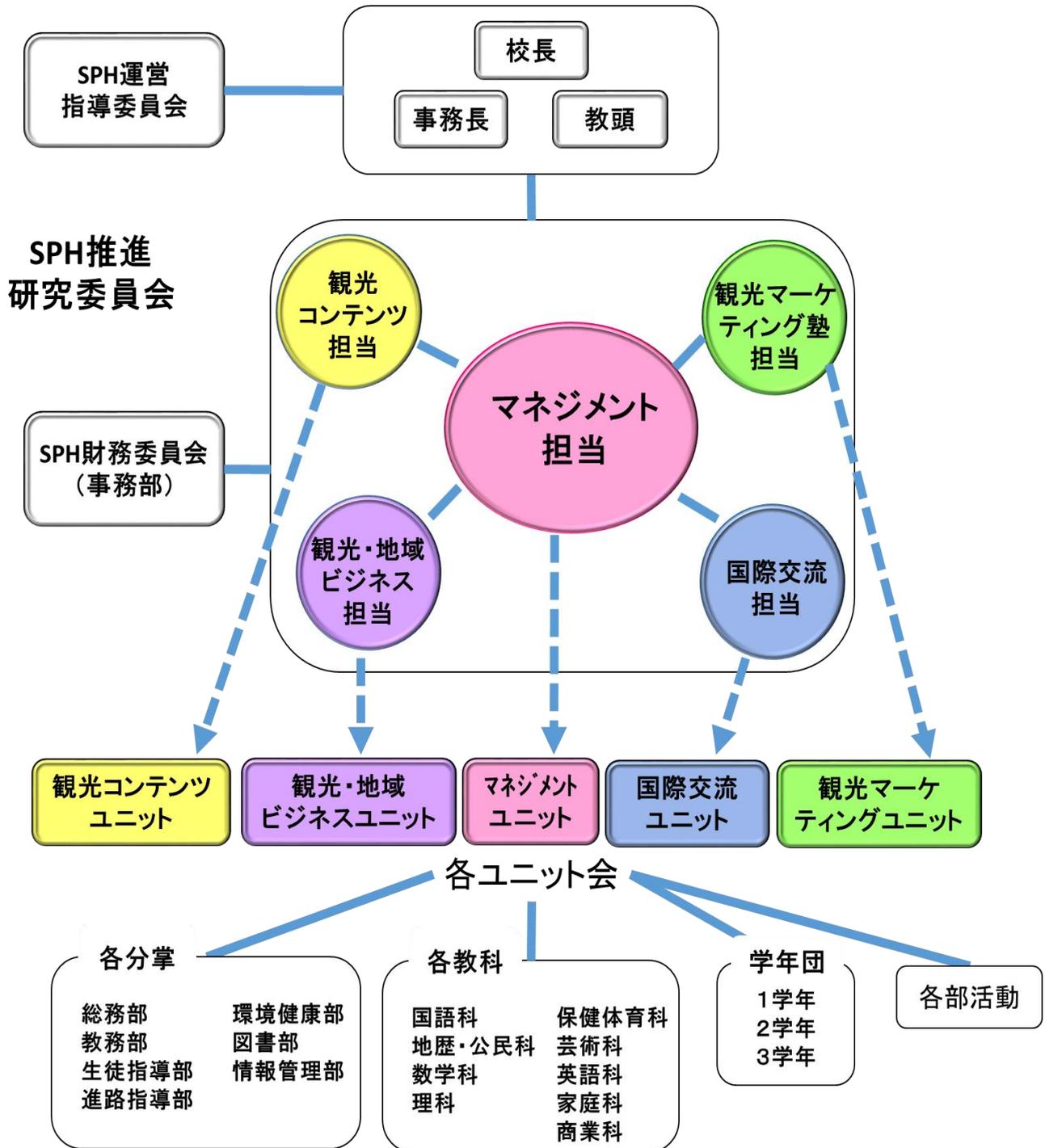
千葉県教育庁教育振興部学習指導課は、学識経験者等から組織される運営協議会に学習指導課長とともに参加し、一宮商業高等学校と連携しながら実践研究を進めていく。具体的には学期に1回学校訪問を実施し、推進状況について実地調査を行い、積極的な意見交換をしながら到達点、改善点を協議していく。

また、千葉県高等学校教育研究会商業部会における研修会で、研究の実践、進捗状況報告をしていく場を設定する。その中で、千葉県の商業教員への周知を図り、様々な意見を求める中で今後の実践研究への支援もしていく。

#### （５）地域との連携

高校生版「DMO」の研究のためには、教員・生徒・地域が概念を共有し、活動を進めていくことが不可欠である。そのために、まずは一宮町で地域観光ビジネスを運営し、DMOの活動を始めている企業との連携を図る。また、一宮町役場、町観光協会、町商工会、地元NPO法人との協力・支援体制を築き、地域の特徴や課題についての情報提供や地域ビジネスの学びに関する指導・助言、地域のイベント等における企画・参加協力体制を築く。授業のみならず、ボランティアや部活動単位での連携も図っていく。

## 千葉県立一宮商業高等学校 SPH校内体制図



【一商版DMO組織】

一宮町・一宮町町民  
一宮町来訪者等

意見・情報 等

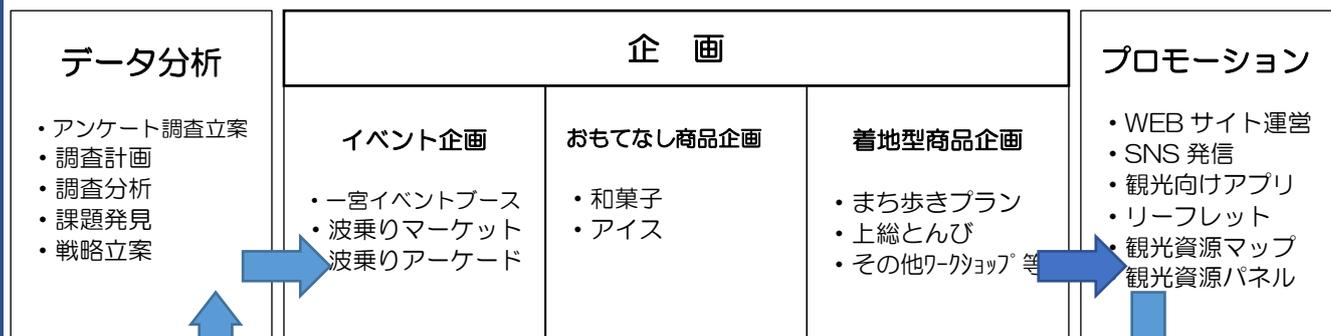
情報共

観光商品・情報 等

## 一商版DMO『ネーミング』

一商生が地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った  
観光地域づくりの「舵取り役」として

多様な関係者と協働しながら創造的に観光戦略を立てて実践する組織



提案・実施依頼 等

情報共有

実践・成果物 等

1年 ビジネス基	2年 地域観光Ⅰ	3年 地域観光Ⅱ	3年 課題研究
1年 情報処理	2年 マーケティング	3年 電子商取引	3年 広告と販売促
1年 C英語Ⅰ	2年 C英語Ⅱ	3年 プログラミング応	3年 総合実践
1年 現代社会		3年 英語会話	
		委員会	部活動

### 3. 研究内容別実施時期

研究内容	実施時期											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域の課題発見力・分析力・表現力の育成 (ビジネス基礎)			○			○	○	○	○	○	○	
地域の課題発見力・分析力・表現力の育成 (現代社会)						○	○	○				
英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする積極的な態度と能力の育成		○	○	○	○	○	○	○				
地域観光マーケティング・マネジメント力の育成 (地域観光Ⅰ、Ⅱ)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ITの力で地域を活性化させる発想力と主体性の育成	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
観光ビジネスに必要な企画力・想像力の育成	○	○	○	○	○	○	○	○				

### 4. この事業に関連して補助金等を受けた実績

補助金等の名称	交付者	交付額	交付年度	業務項目
特になし				

### 5. 知的財産権の帰属

※ いずれかに○を伏すこと。なお、1.を選択する場合、契約締結時に所定様式の提出が必要となるので留意のこと。

( ) 1. 知的財産権は受託者に帰属することを希望する。

(○) 2. 知的財産権は全て文部科学省に譲渡する。

### 6. 再委託に関する事項

再委託業務の有無 無

II 委託事業経費

別紙1に記載

III 事業連絡窓口等

千葉県立一宮商業高等学校

千葉県長生郡一宮町一宮 3 2 8 7

TEL 0475-42-4520 FAX 0475-42-7418